

眞杉静枝 （真杉） 小説家。明治二十二年十一月福井縣生まれ、昭和二十年六月二十九日没（一九〇一—五）。臺中高等女學校中退。若くして破婚し大阪で自活。『大阪毎日新聞』記者時代の公知の公武者小路實篤の庇護を受け、昭和二年處女作『小魚の心』を發表。のち中村地平と同棲、更に中山義秀と結婚し二年で破綻。戦後は鏡書房の設り、二十五年のらの『讀書新聞』紙上の専ら相談擔當など。

著譯書 『草履と抱く女』（昭和十五年八月八日春陽堂書店）、『愛情の門』（昭和十五年八月十日新潮社）、『ことづけ』（昭和十六年十一月五日新潮社）、『大石爽み』（昭和十六年十一月二十日聖水書房）、『妻』（昭和十七年一月二十日は博文館）、『三つのお誓ひ』（内題）（三つのお誓ひ）（昭和十七年二月二十日はちまき出版部）、『鹿鳴館』

以後『（昭和十七年十月二十日實業之日本社）、『歸沐（二日間）』（昭和十八年七月十八日秩父書房）、『若葉とこの』（昭和二十一年十一月十五日京都・京都印書館）、『鏡と髪』（昭和二十一年一月二十日

前田出版社）、『後宮の人』（昭和二十二年四月十日福岡・九州書房

『書ぞいおうし中篇小説叢書』）、『沈んだ女』（昭和二十二年十月一日鏡書房）、『花怨』（昭和二十二年十一月二十日八興出版部）、『女流作家小説集』（合著、昭和二十二年十一月五日毎日新聞社）、『映畫の季節』（合著、アメリカ映畫文化協會）

英雄譚、昭和二十四年一月二十日アメリカ映畫文化協會出版部）、『夜會服の乙女』（昭和二十四年五月十



眞杉静枝 著

五日浪漫社(没田書店)、『新藝術家講座・第一卷—小説篇』(合著、
再版・昭和二十四年十一月十日)、講社編輯)、『サム・ウエルズ著『ロ
ーロップの横顔』(譯、昭和二十五年七月、千五百ジープ社)、小説
可入生業内』(昭和二十七年二月十日、四季社)等。

又獻、石川達三著『花の浮草』(昭和四十年八月、千八百新編社)等。